

特集：高度な対話による先進的な教育・学習システム

管楽器演奏音可視化システムの導入・活用に影響を与える吹奏楽指導者の特徴
——指導者と開発者の対話にもとづく質的研究——金子 大輔*¹, 大崎 理乃*²Characteristics of a Wind Band Instructor Affecting the Implementation
and Use of the Sound Visualization System
—A Qualitative Study Based on Instructor-Developer Dialogues—Daisuke KANEKO*¹, Ayano OHSAKI*²

This study aimed to explore a wind band instructor's perceptions affecting the implementation and use of the Sound Visualization System (SVS) in wind band instruction, and the pedagogical beliefs underlying those perceptions. Data were collected through semi-structured interviews conducted with a wind band instructor before and after an SVS trial, and analyzed using SCAT (Steps for Coding and Theorization). The results revealed that the instructor recognized the system in three dimensions: 1) as a tool supporting students' "self-regulated individual practice", 2) as a system promoting student autonomy through its objectivity, and 3) as a complementary tool rather than a replacement for instructor guidance. The instructor's recognition was shaped by two key pedagogical beliefs: emphasis on student autonomy and a long-term educational perspective aimed at fostering lifelong musical engagement.

キーワード：吹奏楽，吹奏楽指導者，管楽器演奏音可視化システム，教育的信念，SCAT

1. はじめに

教育に情報通信技術（以下，ICTとする）が広く普及し，技術的に高度な教育・学習支援システムの導入も進んでいる。しかし，こうしたシステムの導入・活用は，システムの技術的な高度さだけでなく，それを実際に導入・活用する教師などからも大きな影響を受ける。そのため，「教育テクノロジーを社会・文化的文脈で検討すること」[1]が求められている。本研究は，学校吹奏楽という特定の教育現場において，演奏音を可視化するシステムの導入・活用とそれに影響を与える吹奏楽指導者の特徴について，吹奏楽指導者とシステム開発グループのメンバーとの対話を通して明らかにすることを目的とする。

1.1 日本における学校吹奏楽の課題

日本では学校吹奏楽活動が盛んであり，とくに中学校や高等学校においては重要な教育活動の一環である。しかし，管楽器演奏経験や知識の有無にかかわら

ず，音楽専科教員が吹奏楽部を指導せざるをえない場合も増えており[2]，吹奏楽部を指導する教師の指導力不足の問題が懸念されてきた。経験の少ない吹奏楽指導者にとって指導の負担は小さくなく，例えば渡会[3]は調査結果をもとに，指導に関する知識の少ない吹奏楽部顧問教諭が感じている負担や多忙感について指摘している。

これに対して矢崎・新山王[4]は，熟達した吹奏楽指導者や職業演奏家を外部講師として活用することを提案しているものの，一部の学校を除き，この方法は人的にも経済的にも現実的ではない。多くの吹奏楽部では，年長の楽器経験者による指導に頼っているのが現状である。年長者による指導には一定の効果があり，例えば石田[5]は，小学校において，個々の演奏技能を向上させるための効果的な方法として，上級者と初級者が交互奏を行い，音を聞き合うことの有効性を示している。しかし，とくに初心者には個人での基

*¹北星学園大学経済学部 (School of Economics, Hokusei Gakuen University)

*²東北大学高度教養教育・学生支援機構 (Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University)

受付日：2025年6月16日；再受付日：2025年9月9日；採録日：2025年11月22日